



定量評価						
指標1	単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
傷病鳥獣自然復帰率	目標	%	30	30	30	30
	実績	%	30	30		
年間経費(事業費・人件費の合計)	千円	13,510	13,510	13,550		
単位当たり経費	千円/単位	450	450			
単位当たり経費変動率	%		100.0%			

指標2	単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	%				
	実績	%				
年間経費(事業費・人件費の合計)	千円					
単位当たり経費	千円/単位					
単位当たり経費変動率	%					

定性評価													
過年度の実施内容													
18年度傷病野生鳥獣保護状況 保護件数 ( )内は自然復帰数 鳥類 253 (76) 哺乳類 85 (26) 計338 (102)													
事前評価	<table border="1"> <tr> <th>必要性</th> <th>(分析・理由)</th> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 高い B ↑ C ↓ D 低い</td> </tr> </table> </td> <td>傷病野生鳥獣を保護することで、生命を宿すものとして動物を愛護するとともに、市民の自然に対する意識を高めてもらう。</td> </tr> <tr> <th>行政関与の妥当性</th> <th>(分析・理由)</th> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 高い B ↑ C ↓ D 低い</td> </tr> </table> </td> <td>一般のペットと違い傷病野生鳥獣の保護治療を行う施設は限られている。</td> </tr> </table>	必要性	(分析・理由)	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 高い B ↑ C ↓ D 低い</td> </tr> </table>	A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い	傷病野生鳥獣を保護することで、生命を宿すものとして動物を愛護するとともに、市民の自然に対する意識を高めてもらう。	行政関与の妥当性	(分析・理由)	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 高い B ↑ C ↓ D 低い</td> </tr> </table>	A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い	一般のペットと違い傷病野生鳥獣の保護治療を行う施設は限られている。
	必要性	(分析・理由)											
<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 高い B ↑ C ↓ D 低い</td> </tr> </table>	A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い	傷病野生鳥獣を保護することで、生命を宿すものとして動物を愛護するとともに、市民の自然に対する意識を高めてもらう。										
A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い												
行政関与の妥当性	(分析・理由)												
<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 高い B ↑ C ↓ D 低い</td> </tr> </table>	A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い	一般のペットと違い傷病野生鳥獣の保護治療を行う施設は限られている。										
A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い												
事後評価	<table border="1"> <tr> <th>有効性</th> <th>(分析・理由)</th> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない</td> </tr> </table> </td> <td>傷病野生鳥獣を保護することで、生命を宿すものとして動物を愛護するとともに、市民の自然に対する意識を高めてもらう。</td> </tr> <tr> <th>効率性</th> <th>(分析・理由)</th> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない</td> </tr> </table> </td> <td>前年度とほぼ同額。</td> </tr> </table>	有効性	(分析・理由)	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない</td> </tr> </table>	A	A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない	傷病野生鳥獣を保護することで、生命を宿すものとして動物を愛護するとともに、市民の自然に対する意識を高めてもらう。	効率性	(分析・理由)	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない</td> </tr> </table>	B	A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない	前年度とほぼ同額。
	有効性	(分析・理由)											
<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない</td> </tr> </table>	A	A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない	傷病野生鳥獣を保護することで、生命を宿すものとして動物を愛護するとともに、市民の自然に対する意識を高めてもらう。										
A	A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない												
効率性	(分析・理由)												
<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない</td> </tr> </table>	B	A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない	前年度とほぼ同額。										
B	A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない												
今後の事業展開													
<table border="1"> <tr> <th>規模</th> <th>(分析・理由)</th> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <tr> <td>現状</td> <td>拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止</td> </tr> </table> </td> <td>野生鳥獣保護対象地域が県西部と決められている。また、保護する傷病野生鳥獣の件数はほぼ一定している</td> </tr> </table>		規模	(分析・理由)	<table border="1"> <tr> <td>現状</td> <td>拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止</td> </tr> </table>	現状	拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止	野生鳥獣保護対象地域が県西部と決められている。また、保護する傷病野生鳥獣の件数はほぼ一定している						
規模	(分析・理由)												
<table border="1"> <tr> <td>現状</td> <td>拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止</td> </tr> </table>	現状	拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止	野生鳥獣保護対象地域が県西部と決められている。また、保護する傷病野生鳥獣の件数はほぼ一定している										
現状	拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止												
具体的な改善内容・事業の方向性等													
(問題意識) 不定期に園外から持ち込まれた傷病野生鳥獣の検査・治療・保護業務の対応におわれ、動物園で展示飼育している動物の検査診断等の業務に支障が出ている。また、傷病鳥獣を一時的に動物病院等で保護しているが、園外からの感染症が心配である。 (想定結果) 県の実施が適当なもの													
〔備考〕事業に対する市民・市民活動団体・事業者・議会からの指摘													